

安全な暮らしを支える税金

長生村立長生中学校 3年 新保 歩都

四年前、僕の住む地域で記録的な大雨により、六つの市町村に流れている一宮川が氾濫し、川沿いの広い範囲で浸水被害が多発した。

僕の家は川の近くだったけれど、幸いなことに近くに広大な遊水地があり、僕の家は浸水せずにすんだ。

しかし大雨が過ぎ去った後、六つの市町村では、いたるところで動けなくなった車が点在していたり、家の壁に木が押し寄せた跡がくっきりと残されていたりと、被害の大きさを物語っていた。

数日後、災害によるごみがあちこちに山のように積もっていたが、それぞれの市町村が無料回収を行い、そのおかげで、被害にあった人達は家を整えることに専念できた。

街並みが元通りになってくると、一宮川流域の各所でいろいろな工事が始まった。どんな工事が行われているのか気になった僕は、千葉県のホームページを調べてみた。

そこには、調整池の増設、堤防整備、河道拡幅に掘削、雨水ポンプの増強などの多岐にわたる対策が全長約三十七キロある川のいたるところで講じられていることが載っていた。

そしてこれらが完成したらきっともう一宮川の氾濫による水害がないのだろうと、ホッとしたと同時に、この大規模な工事は税金でまかなわれているということがわかり驚愕した。それ以外にも、災害ごみの回収と処理も税金でカバーされており、僕の家のある遊水地も税金で作られていた。

身近なものに税金が大きく関わっているところをはじめて目の当たりにして、税金のありがたさに、僕は心が揺さぶられた。

日本は小さな島国の中に、約一億二千万人が豊かな自然と共に暮らしているが、自然災害も多い。テレビでは毎年、各地で自然災害による被害のニュースが報じられる。

しかし一方で、それらの被害を教訓に、安全対策が日々講じられているのだ。

税金は防災や復興などになくってはならないし、医療や教育、治安維持や社会保障、さらには海外からの危険に備えた防衛など、様々なところで税金は私達の安全な暮らしの地盤となっている。税金という一人一人の支えで、日本は成り立っているのだ。

物心ついたときから当たり前のように税は存在するため、その役割や重要性を感じることに希薄になり、ただ自分の手元からお金が減っているという目先の現状に不満を持っている人が多いが、もっと使われ方を把握するべきだと思った。

自然豊かで、みんなが助け合いの精神を持ち、その気持ちが税金として社会に恩恵をもたらし、みんなが平等で安全な環境の中、教育を受けられる日本が僕は大好きだ。

今の日本を築いてくれた先人の納税者の方々に感謝をし、将来は僕もこの平和で安全な暮らしを持続できるように、しっかりと納税したいと改めて実感した。